

北海道旭川工業高等学校

課程： 定時制
 学科： 工業科
 生徒数： 80名

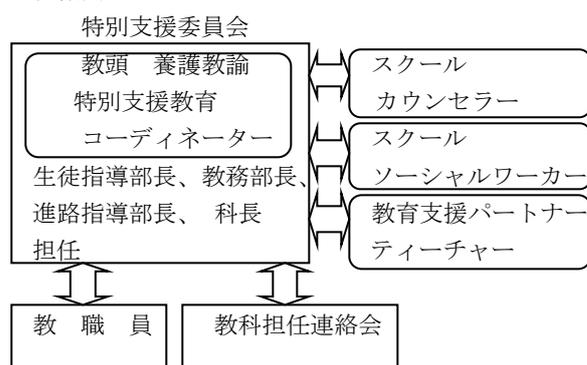
1 取組の特徴

1年生を中心に予防的・開発的カウンセリングを実施し、より良い人間関係を形成する力やコミュニケーション能力の育成と向上を図り、いじめや中途退学の未然防止に取り組む。

2 取組のねらい

本校に入学してくる生徒は、中学校時代にいじめや不登校、学業不振やネグレクトなど人間関係や学校生活に課題や困難を抱えている生徒が多く、低学年の中途退学者も多い。こうした生徒たちにソーシャル・スキル・トレーニングやピア・サポートなどの集団カウンセリング授業を実施して、より良い人間関係を形成する力やコミュニケーション能力の育成と向上を図り、より良い学級づくりを行う。また、学校生活不適応の解消を図りながら、中途退学者の更なる減少に取り組む。

<組織図>



3 取組の経過

- | | |
|---|--|
| <p>4月 特別支援委員会①、②
生徒実態把握調査</p> <p>5月 ほっと(1回目)、アセス(1回目)
個別カウンセリング①</p> <p>6月 個別カウンセリング②
教科担任連絡会①、②
SSW来校①
教育相談①
特別支援委員会③(P T来校①)</p> <p>7月 SSW来校②、③
個別カウンセリング③
集団カウンセリング授業①</p> <p>8月 個別カウンセリング④
集団カウンセリング授業②</p> | <p>9月 教育相談②
個別カウンセリング⑤</p> <p>10月 デートDV防止教室
個別カウンセリング⑥、⑦
集団カウンセリング(宿泊研修)</p> <p>11月 個別カウンセリング⑧、⑨、⑩
教科担任連絡会③
特別支援委員会④(P T来校②)
ICTを活用した「ほっと」の検討会</p> <p>12月 教育相談③
集団カウンセリング授業③
ほっと(2回目)</p> <p>1月 個別カウンセリング⑪</p> <p>2月 個別カウンセリング⑫
アセス(2回目)</p> |
|---|--|

4 取組の内容

1 集団カウンセリング授業

ア ねらい

コミュニケーション能力や対人スキル、自己有用感などを身に付け、自己実現を図る。今年度は「ほっと」の平均値が全道を下回る「表明」、「参加」「率先」、「相談」等の育成を図る。

イ 対象

1年電気科、建築・土木科



1回目(7月23日)

4 取組の内容

ウ 内容

スクールカウンセラーで臨床心理士である寺崎真一郎先生を中心に年間3回、集団カウンセリング授業を通してコミュニケーション能力の育成と向上を図った。生徒5名のグループを作り、各グループには本校教員等が入る。宿泊研修でも「コミュニケーション・トレーニング」を実施した。

エ 成果等

「表明」や「率先」のスコアが上昇し、学校生活を積極的に送ることができるようになったことがうかがえる。「配慮」も上昇しており、良い人間関係を築くことができていることがうかがえる。「参加」に変化はなく、「相談」は下降したが、次第に学校生活にも楽しく慣れてきたものと思われる。

オ 生徒の感想

- ・みんなでジェスチャーをやり、人に伝えることが少し上手くなったような気がした。先生と生徒の間が少し縮まったと思う。(1回目)
- ・「だんだん〇〇になる」でみんなのリアクションが面白かった。「いいところ探し」では他のクラスの人をよく知ることができた。「間違い探し」は楽しかった。(2回目)
- ・頭を使ってみんなで意見したりすることが楽しかった。大学生と交流できていい経験になりました。今回が最後なので少しさみしいけれど、楽しめたので良かった。(3回目)
- ・最後のステップアップ・プログラムで2時間があつという間でした。いろいろ考えました。とっても考えました。すごく考えました。難しかったけれど楽しかった。(3回目)

カ ICTを活用した「ほっと」の研修会

11月16日、北海道教育カウンセリングICT活用事業実施要領に基づき、北海道医療大学教授富家直明氏(北海道教育相談スーパーバイザー)を講師として、本校職員(教頭、担任、学年主任、養護教諭、特別支援教育コーディネーター)とWeb会議上で繋ぎ、5月に実施した「ほっと」の研修会を実施した。富家教授から、結果の解釈の方法や「ほっと」の詳しい内容について、直接説明を受けることができた。



2回目(8月27日)



宿泊研修(10月15日)



3回目(12月21日)



5 次年度に向けて

1 成果

ア 中途退学者数及び不登校生徒数の推移

中途退学者数はほぼ例年と変わりはないが、1年の中途退学者が、昨年の5名から2名に激減した。

イ その他の指標による評価

「アセス」や「生活実態把握調査」の全校生徒実施により、早期に支援の方策を立てることができた。

ウ 「ほっと」実施により把握した生徒のコミュニケーションスキルの概況

本校生徒は人間関係に困難を抱えている生徒が多く、「表明」、「配慮」、「率先」等の項目が低く、ステップアップ・プログラムで実施する集団カウンセリング授業等を通じたコミュニケーション能力の育成が必要であることが客観的に明らかになった。

2 課題

- ・「生活実態把握調査」を早期に分析することで、生徒の変容を早い段階で把握し、コミュニケーション能力の育成や中途退学者の減少の取組に結びつける必要がある。
- ・「ほっと」と「アセス」の併用は負担も多く、実施方法についての検討が必要である。

3 次年度に向けて

- ・全校生徒を対象とした「ほっと」の実施。
- ・入学当初から、教職員による「集団カウンセリング授業」の実施。

北海道利尻高等学校

課程： 全日制
 学科： 普通科、商業科
 生徒数： 76名

1 取組の特徴

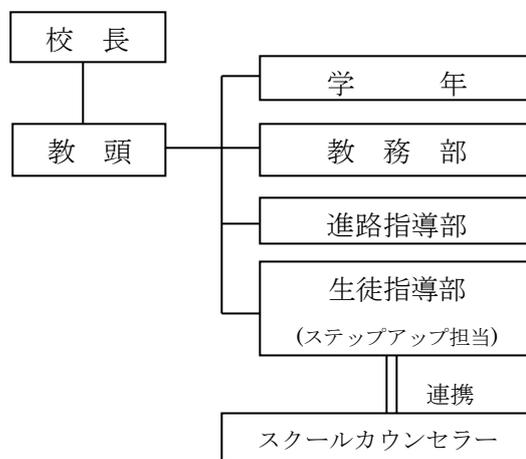
- 地域行事などに積極的に参加させ、コミュニケーション能力の向上を図る。
- 理解支援ツール「ほっと」を利用し、生徒たちの課題を見つける。
- 校内研修を通じて、教員の生徒理解に向けた資質・能力の向上を図る。

2 取組のねらい

島という限られた環境のため、生徒は幼少期から変わらない人間関係のまま中学校から高校へ進学している。高校でもクラス替えがないため、生徒の固定化した人間関係を大きく変えることが極めて難しい状況である。

また、ここ数年でコミュニケーション能力が十分でないために、対人関係で悩みを抱える生徒が増えている。そのため、生徒がよりよい人間関係を築く力を身に付けるとともに、生徒自身が対人関係の問題を解決し成長するよう本事業に取り組んでいる。

<組織図>



3 取組の経過

- | | |
|---------------------------------|---------------------------------------|
| 4月13日 「ほっと」の実施① (1学年) | 12月4日 グループエンカウンター③ (1学年) |
| 6月3日 宿泊研修におけるグループエンカウンター① (1学年) | 12月4日 「ほっと」の実施③ (1学年) |
| 6月7日 利尻島悠遊覧人Gボランティア (有志生徒) | 12月12日 町民歳末チャリティー祭りボランティア (有志生徒) |
| 6月11日 「ほっと」の実施② (1学年) | 2月24日 校内研修「スクールソーシャルワーカーの活用について」(教職員) |
| 10月16日 グループエンカウンター② (1学年) | 3月 学校プログラムの作成 |
| 10月8日 保育所ゆうぎ会ボランティア (有志生徒) | |

4 取組の内容

1 生徒に対する取組

- ・「構成的グループエンカウンター事典」等を基にグループエンカウンターを行った。島という閉鎖された環境のため以下を目標とした。
 - (1) 最初は自己理解を行う。
 - (2) お互い知った者同士であるが、お互いに見えていない事があることを理解させる。
 - (3) 人間はお互い違うものであり、お互いを尊重しなければならい事を理解させる。
- ・グループエンカウンター実施後、「ほっと」の調査を行った。
- ・全員参加の形ではないが、4月～1月にかけて利尻島で行われた各種町内行事に、主にサポート役として参加した。幅広い年代と接することによりコミュニケーション能力を高めることができた。



2 教員に対する取組

- ・2月24日(水)に、スクールソーシャルワーカー(稚内市教育相談所室長 加藤良平氏)を講師として招き、校内研修を行った。
- ・講演を通じて、スクールソーシャルワーカーの役割や活用方法について理解を深めるとともに、生徒理解を中心とした保護者等とのかかわり方について実践力を身に付けた。

5 次年度に向けて

1 成果

ア 中途退学者数及び不登校生徒数の推移

	平成27年度	平成26年度
中途退学者数	0名	2名
不登校生徒数	0名	0名

イ その他の指標による評価

	平成27年度	平成26年度
いじめ認知件数	0名	3名

ウ 「ほっと」実施により把握した生徒のコミュニケーションスキルの概況

数値に変化は見られなかった。

エ 生徒の変容した姿

数値に表れていないが、お互いを尊重する態度が養われてきており、生徒同士の表立った激しい衝突は少なくなった。

2 課題

生徒のコミュニケーション能力の向上やよりよい人間関係の構築のために、取組に関する目標を一層明確にする必要がある。

3 次年度に向けて

問題事案が起きた時の解決に向けて、教職員一人一人の実践力の向上と全体の支援体制の充実に努める。